

事業者排出量削減報告書

(あて先) 京都府知事 住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地) 京都市左京区静海市原町265	氏名 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 株式会社 三川島織物ゼルク 取締役社長 中西 正夫 電話 075 - 4111
--	--

京都府地球温暖化対策条例第19条の規定により提出します。

特定事業者の主たる業種	繊維製品の製造・販売
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者 (大規模エネルギー使用事業者 (原油に換算して1,500キロリットル以上)) <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者 (大規模運送事業者 (トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上)) <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者 (その他の温室効果ガスの大規模排出事業者 (二酸化炭素に換算して3,000トン以上))
計画期間	平成 18 年 4 月 ~ 平成 20 年 3 月
基本方針	エネルギー使用の大部分を占める市原事業所は、1999年8月にISO14001の認証を取得しており、「エネルギー使用の合理化」を環境方針の一項目に取り上げ、毎年1%以上の地球温暖化ガス排出量の削減をする。
推進体制	市原事業所環境責任者をトップにした環境推進委員会にて、毎月温暖化ガスの排出量の実績を報告、管理している。

年度ごとの具体的な取組及び措置	年度	設備、対象、工程等	措置内容
	18	ボイラ	目標値を設定し、運転時間の調整、燃焼度合いを管理
18	空調機器	特に冷暖房の設定温度を管理 (クールビズ、ウォームビズ活動の実施)	
18	染色工程	原単位目標値を設定し、エネルギー効率が高い作業方法を採用 等	
18	事務間接部門	クールビズ、ウォームビズ活動の実施と、OA機器、照明等、昼休み等の不要時の電源OFFの励行	

温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度 (実績)	目標年度 (計画)	削減率 (計画)	報告年度 (実績)	削減率 (実績)
		(16) 年度 (二酸化炭素換算 (t))	(19) 年度 (二酸化炭素換算 (t))	(%)	(18) 年度 (二酸化炭素換算 (t))	(%)
A	事業所等排出区分	2,953 t	2841 t	-3.8 %	2300.2 t	-22.1 %
B	輸送車両排出区分	t	t	%	t	%
C	その他排出区分	t	t	%	t	%
	排出合計	*1 2953 t	*2 2841 t	*3 -3.8 %	*4 2300.2 t	*5 -22.1 %

その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度 (計画)			報告年度 (実績)				
		取組量等		(二酸化炭素換算 (t))	取組量等		(二酸化炭素換算 (t))		
	森林の保全及び整備	(整備面積)	ha	(吸収量)	t	(整備面積)	ha	(吸収量)	t
	府内産の木材の利用	(利用量)	m <sup>3</sup>	(削減量)	t	(利用量)	m <sup>3</sup>	(削減量)	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(売電量)	kwh	(削減量)	t	(売電量)	kwh	(削減量)	t
		(熱供給量)	GJ	(削減量)	t	(熱供給量)	GJ	(削減量)	t
	グリーン電力の購入	(購入量)	kwh	(削減量)	t	(購入量)	kwh	(削減量)	t
	削減量等合計			*3				*5	

差引排出量 (排出合計-削減等合計)	基準年度 (実績)	目標年度 (計画)	削減率 (計画)	報告年度 (実績)	削減率 (実績)
	*1	2953 t	(*)2-(*)3 2841 t	-3.8 %	(*)4-(*)5 2300.2 t

特記事項  
 ・4月からコージェネレーションシステムの稼働停止  
 ・事務間接部門の省エネ活動としてクールビズ、ウォームビズ活動を実施  
 1. H18年度のCO2排出量が前年に比べ9%減少した。また、コージェネの停止に伴い、昨年に比べ都市ガスの使用量が減り、電気購入量が増加したため、エネルギー使用に起因するCO2の排出比率が変化した。(H17年度:電気43% 都市ガス56% H18年度:電気56% 都市ガス43%)  
 2. 空調設定温度の政府推奨温度管理を行うことにより、空調電力使用量が17年度比約20%削減され、この要因によりCO2排出量は約2%減少した。  
 3. 環境配慮製品の技術・製品の開発についても積極的に取り組んでいる。

連絡先	担当部署	
	担当者氏名	
	住所	
	電話番号	
	ファクシミリ番号	

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。  
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。  
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 4 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」の実績については、計画期間中の実績の累計を記入してください。  
 (例) グリーン電力の購入による温室効果ガスの削減実績が18年度5トンで19年度10トンの場合、19年度の報告書の実績については18年度と19年度の実績を累計し15トンと記入  
 5 「特記事項」には、平成2年度(1990年度)を基準とした排出量の対比やエネルギー原単位CO2排出量、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の使用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。